

モノづくり先進都市 京都



京都試作ネット
kyoto-shisaku.com

組織改編した試作グループが総合力を発揮

景況感好転も実態注視 転換迫られる事業モデル

「安倍政権はデフレ解消や大型経済対策、経済成長戦略を打ち出し、景況感のムードが高まっています。政策をどうに評価しますか。」

「田安・株高、大型補正予算の成立と極めて速いテンポで進み、市場が好転している。閉塞（へいそく）感が長かった中で、胸のつかえが取れた感じがした。しかし、成長戦略は医療やエネルギーをはじめ、すぐに成果が出るテーマとは限らない。成長戦略と相まってGDP（国内総生産）や雇用も改善すれば政策は本物だろうが、それまでは冷静に様子を見たい。田安による輸入コストの増大といったマイナス面や、

予算のばらまきにならないかも注視しなければならぬ。」

「成長戦略だけでは不十分と考えますか。」

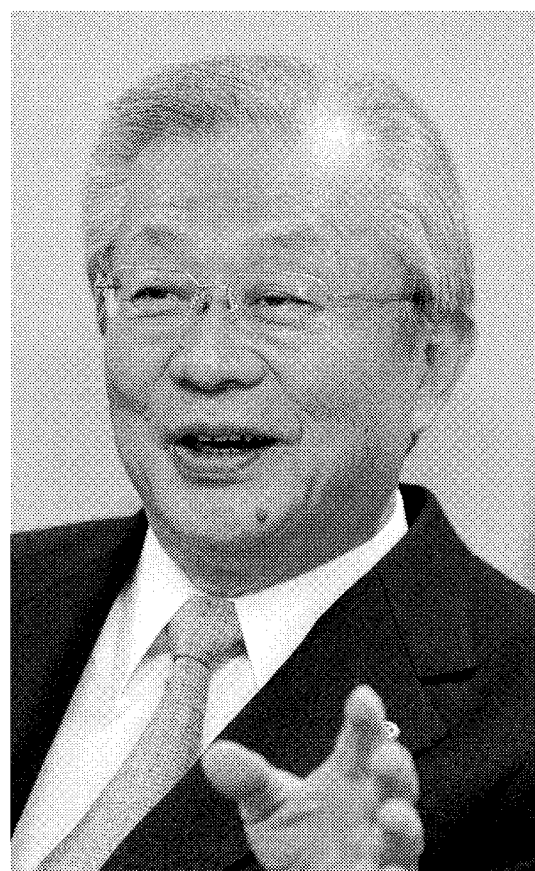
「規制緩和やPPP（環太平洋連携協定）への取り組みも力を入れる。特に京都にはモノづくりの企業が多いだけに、重要なテーマになる。例えば島津製作所が手がける医療機器では、審査や治験の規制が厳しい。京都大学の山中伸弥教授がノーベル賞を受賞したiPS細胞（万能細胞）による創薬も、現状では承認に長い年月がかかる。PPPも賛否は分かれていて、製造業には活性化につながる。」

「グローバルな競争の激化で、京都の地域経済を長年支えてきた企業の事業モデルも、転換期を迎えています。」

「京都には電子関連の部品や装置で世界的に強い企業が多く、経済をリードしてきた。だが、スマートフォンをはじめとするセット製品のライフサイクル（次の製品に切り替わるまでの期間）が急速に短命化し、電子関連も以前のように高収益を上げるのは難しくなってきた。得意としてきた高品質も、グローバルな市場では『過剰品質』となる問題が起きている。」

「どのような要因が考えられますか。」

「この10～20年間にモノづくりを革新してきたのは米国だろう。世界中から集めた部品の組み合わせで高機能なセット製品を開発し、組み立ても海外に発注するビジネスモデルを築き上げた。モノづくりを『捨てた』ともいえるだろう。半面、日本は基幹技術にこだわっており、市場にあまり評価されないモノづくり



京都工業会会長
服部 重彦氏

京都のモノづくり企業では主力の電機メーカーで、業績の後退が目立ち始めた。テレビをはじめとするデジタル家電の不振が影響しているほか、高機能携帯電話（スマートフォン）向けの事業も収益環境は厳しい。安倍政権の登場で、田安や株高による収益の持ち直しもみられる

に陥っていた。柔軟な思考が足りなかった」

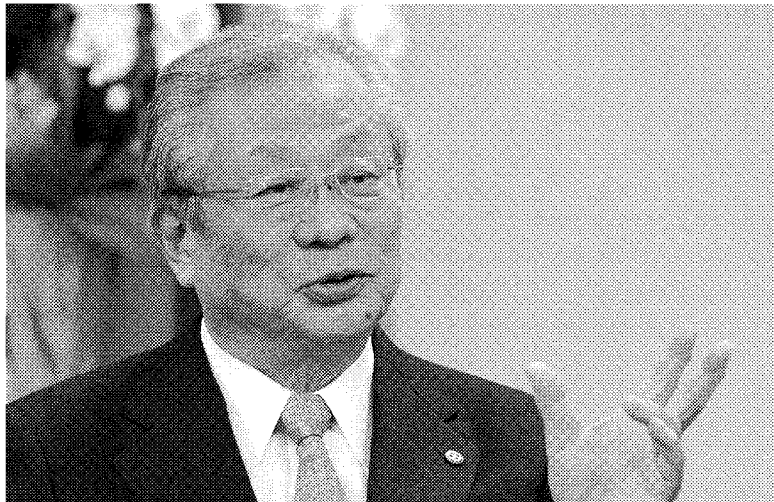
「欠いていた柔軟な思考」

「モノづくりを再び元気にする施策には、何が必要でしょうか。」

「一つには、新たな価値を生むベンチャーの支援と育成が欠かせない。2012年10月に京都工業会の産業振興部長として北米の大学や企業を訪れ、改めて重要性を感じた。マサチューセッツ工科大学（MIT）の視察では、研究開発によって最終的にどれだけ雇用を生み出すかで、大学が評価されることを知った。」

「MITによるベンチャー支援の特色とは。」

「起業家が居る施設には、さまざまな分野の関係者が盛んに出入りしていた。起業家、大学、大企業、行政が『生態系』のように機能している光景には、視察団が全員感動した。他国からMITにきて医療機器会社を起し、成功した教授の話も聞いた。『研究に失敗は付きもの。その



モノづくりを『捨てた』ともいえるだろう。半面、日本は基幹技術にこだわっており、市場にあまり評価されないモノづくり

京都にシリコンバレーを 産学公でベンチャー支援

「どのような体制が求められるのですか。」

「京都方式の『産学公』連携をベースに、全体を引っ張る運営体制が必要になる。国も中核的な大学に対し産学官共同で研究成果の実用化を促すため、1200億円出資する政策を経済対策に盛り込んだ。こうした資金も活用し、大学とベンチャーを核として産学公が協力し、京都にシリコンバレーを育みたい。」

「京都工業会としては、独自にどのような支援策に取り組んでいますか。」

「13年にはベンチャーとして成功した経営者から詳しく話を聞いて、ベンチャーを生み出すには何が必要で何が足りないのか、具体的に調べてみたい。ライフサイエンスやエネルギー、新たな経営モデルといった新事業に挑戦する企業も引き続きサポートする。」

「サポートの内容は。」

「懇話会や研究会、京都高等技術・経営学院といった事業を推進している。技術から経営的なテーマまでカバーし、会員以外も受け入れ、参加者は年間延べ1万5000人以上になる。会員同士の結びつきも強い。広いネットワークも築いている。講師には大学の教授や第一線の企業幹部を招き、特に中小企業にとっては人材育成の受け皿にもなっている。」

「モノづくりの企業にとつては、生産拠点を含む海外事業も生き残りに不可欠となっています。」

「京都では海外で生産している中小企業がまた少ないので、今後も進出は増えるだろう。12年には中国で反日暴動が起きたが、企業にとっては市場があるところに出て行く覚悟が変わりはない。そこで京都工業会では13年度に、コストが上昇した中国から他国へ拠点をシフトする『チャイナ・ラッシュ』の動きに対応し、東南アジアへ『ビジネス・マッチング視察団』を派遣する。産業振興では、中東の中でも比較的安全なトルコやイスラエルなどを検討している。」

副産物も正しく評価していただく」と説いていた。京都大学の山中教授が『失敗しても原因が分かれば、実験は失敗ではない』と話していたのと全く同じ考えだった。」

「京都もそうした先進事例を導入できますか。」

「京都には優れた大学が数多くあり、潜在能力もある。しかし、残念ながら京都に『シリコンバレー』は存在しない。オール京都でベンチャー育成の戦略を描き、推し進めるリード役を欠いている。投資家だけでなく、経営をサポートする『メンター』も少ない」

京都ビジネス交流フェア2013 開催

2月21、22日の2日間、京都府伏見区の京都パルスプラザでは、京都府と京都産業21が主催する「京都ビジネス交流フェア2013」が開かれた。府内の中小企業による展示会をメインに、大手企業との商談会や各種フォーラムなども企画され、会期中延べ9800人が会場を訪れた。

「モノづくり・加技術」と題した展示会では、300社、11グループがブースを構え、自社技術や製品をPRした。NKE（長岡京市）は自動車部品メーカーに納入したばかりという超ロング短軸ロボットフーバーを出展し、最大10分のワイヤ式搬送システムで、工場レイアウトに柔軟に対応するため、ユニットの組み合わせで構築できるようなしたのが特徴。高速で駆動するデモステーションが注目を集めていた。

ヤマハは自動車部品として提案する高強度アルミニウム製の現物を展示。手にとって軽さを体感していた。会場では、表彰式のあった京都中小企業技術賞の優秀技術者が受賞した。京都府が特別、高速で駆動するデモステーションが注目を集めていた。

「13年にはベンチャーとして成功した経営者から詳しく話を聞いて、ベンチャーを生み出すには何が必要で何が足りないのか、具体的に調べてみたい。ライフサイエンスやエネルギー、新たな経営モデルといった新事業に挑戦する企業も引き続きサポートする。」

「サポートの内容は。」

「懇話会や研究会、京都高等技術・経営学院といった事業を推進している。技術から経営的なテーマまでカバーし、会員以外も受け入れ、参加者は年間延べ1万5000人以上になる。会員同士の結びつきも強い。広いネットワークも築いている。講師には大学の教授や第一線の企業幹部を招き、特に中小企業にとっては人材育成の受け皿にもなっている。」

府内企業が技術や製品をアピール

「モノづくり・加技術」と題した展示会では、300社、11グループがブースを構え、自社技術や製品をPRした。NKE（長岡京市）は自動車部品メーカーに納入したばかりという超ロング短軸ロボットフーバーを出展し、最大10分のワイヤ式搬送システムで、工場レイアウトに柔軟に対応するため、ユニットの組み合わせで構築できるようなしたのが特徴。高速で駆動するデモステーションが注目を集めていた。

ヤマハは自動車部品として提案する高強度アルミニウム製の現物を展示。手にとって軽さを体感していた。会場では、表彰式のあった京都中小企業技術賞の優秀技術者が受賞した。京都府が特別、高速で駆動するデモステーションが注目を集めていた。

「13年にはベンチャーとして成功した経営者から詳しく話を聞いて、ベンチャーを生み出すには何が必要で何が足りないのか、具体的に調べてみたい。ライフサイエンスやエネルギー、新たな経営モデルといった新事業に挑戦する企業も引き続きサポートする。」

「サポートの内容は。」

「懇話会や研究会、京都高等技術・経営学院といった事業を推進している。技術から経営的なテーマまでカバーし、会員以外も受け入れ、参加者は年間延べ1万5000人以上になる。会員同士の結びつきも強い。広いネットワークも築いている。講師には大学の教授や第一線の企業幹部を招き、特に中小企業にとっては人材育成の受け皿にもなっている。」

はかりしれない技術を、世界へ。

ISHIDA
株式会社イシダ



しまいやすく
捨てやすい
便利な
パウチです。

狭いスペースでも
冷やして保管

捨てるとき
小さく畳める

お酒は20歳を過ぎてから。飲酒運転は法律で禁じられています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。飲酒は適量を。のんだあとはリサイクル。

www.takarashuzo.co.jp
お客様相談室 TEL 075(241)5111
宝酒造株式会社